

文書で寄せられた意見一覧

地区名	意見趣旨	回答趣旨
富熊コミュニティ	バスの利用方法について ・利用基準、内容が良く分かっていないので周知をしてほしい。 ・手続きはどのようにしたらいいのか。 ・バスを利用した場合の乗務員はどうか。	利用基準は、「公務使用」、「国、地方公共団体等の主催する会や行事へ参加するための利用」、「市の補助金交付団体の事業計画に基づき行う事業での利用」となる。手続きは申込申請書を関係業務担当課長経由で市民センター所長に提出する。バスの使用中は、事故処理等万一の場合に備え職員を配置する。
富熊コミュニティ	尿尿の汲取り手数料について ・合併する前と比較して約30%大幅に値上げになっている。 ・綾歌町の時は、汲取りチケットに汲取り量及び料金を標示してくれていたが、現在（6月分）から汲取り量の記入箇所がなくなり料金のみ記入になっている。	綾歌町は、合併前まで汲取り1回につき200円と10につき55円の従量割りであったが、合併後は回数割を無くし、20につき145円の従量割りのみとしている。合併後、汲取り量を全て複写しないよう変更した。その後、8月から伝票に汲取り量を明確に表示するようにしている。
富熊コミュニティ	葬儀の申し込みについて ・合併後に手続きに行ったが、受付に守衛の方がいて順番取りがスムーズにいかなかった ・手続き等について	合併後の執務時間外の葬儀の受付は合併時から守衛が行っている。受付方法は従前と変わっていない。電話で火葬の予約をいただくと、守衛が必要な内容を確認して、予約を済ませてから死亡診断書と届出人の印鑑と代金を持参のうえ電話をかけた役所で埋火葬の許可書をもらうようになる。
富熊コミュニティ	環境保護行政について ・業務用エアコンを廃棄する場合、廃棄者は廃棄する前にフロンを回収しなければならないが、回収できているのは全国レベルで30%程度となっている。これについて市はどのような対応をとっているか？	市では「環境安全率先実行計画」を策定し、市自らが率先して温室効果ガス削減に向けての取り組みを進めている。市民に対しても市広報誌やホームページで環境負荷低減に向けての意識啓発に努めている。また、より市民生活に近い家電リサイクル法や自動車リサイクル法などとあわせて、必要に応じて県と連携しながら対応していく。
富熊コミュニティ	水道料金（公共料金）について ・合併前と合併後の比較した一覧表をお願いしたい。	懇談会時に配布した資料のとおり。
富熊コミュニティ	青少年の健全育成について ・青少年健全育成のため国際交流をはじめはどうか？グローバル化していく人材育成にも貢献できる。	市内の中学生を姉妹都市や友好都市へ派遣する事業を実施している。
富熊コミュニティ	綾歌町総合運動公園の第2次工事が止まっているが、今後の方針は？	新市での既存施設を可能な限り有効活用することを基本とし、厳しい財政状況を考慮した中で総合計画策定の中で検討したい。
富熊コミュニティ	自主防災組織について今後、市はどのような指導をするのか？自治会単位まで指導するのか？また消防との関連はどうか？	現在、6地区で自主防災組織が結成されている。残りの11地区については、要請がある地区から指導・啓発している。指導はコミュニティ単位で行っている。消防及び消防団は、訓練に協力いただいている。
岡田コミュニティ	地域の活性化に向けた「町のハス(多目的センター)」の有効利用について	公園の便益施設として設置されており、合併後利用率が向上している。地域においても公園を有効に活用いただきたい。
岡田コミュニティ	コミュニティの立場、目的はどのように考えているのか？	コミュニティは地域住民が「自治」という形で運営していくものと考えている。地域住民と協働のまちづくりを進めていくうえで、防災や防犯などいろいろな分野で協力いただきたいと考える。

文書で寄せられた意見一覧

地区名	意見趣旨	回答趣旨
岡田コミュニティ	旧丸亀市から見た旧綾歌町は、どんなものか？ ・丸亀流の手法を押し付けている感じがするがどうか？ ・合併前と対応が違いすぎる。	新市では、合併前に策定した新市建設計画で、地域資源を有効に活用しながらまちづくりを進めていくことにしている。また、各種の事務事業については、新市が速やかに一体性を確保するよう調整している。
城北コミュニティ	まちが発展していることは、成長している証拠であり、新市も成長していくことを期待する。大切なのは結果であり、2年後には中間発表を、4年後には成果を発表していただきたい。	現在、策定に向け取り組んでいる自治基本条例では、情報の提供と共有、市民参画などの仕組みを定めたいと考えている。今後、パブリックコメントを制度化するなど、住民参画の手法を活用して情報が双方向に循環するようにしたい。
城北コミュニティ	懇談会などは、開会前に進行について十分打合せすることが大切。事前に打ち合わせることがお互いに納得のいく懇談会となり、情報の循環が可能になる。	まちづくり懇談会では、各地区でまちづくりについての貴重な意見をいただいた。今後、ワークショップや市民アンケートなど様々な手法により市民の意見を聴く機会を設けたい。
城北コミュニティ	活性化の手法は、地域の実態に対応して取り組むものであり、町内会活動推進特区の制度を設定し、町内活動の推進を図ることが大切である。	これからの地域づくりは、地域に住む方々が自分たちの地域を考え、主体的に取り組むことが何より大切である。地域活性化のための制度についても、地域活動の熟度にもよるが、地域の方々と一緒になって考えていきたい。
城北コミュニティ	市民等との協力・連携・協働の推進について、市のホームページを見ると8団体の名前を記載しているだけで、活動内容は問合せをとなっており、貧弱な内容であった。早急に調査し、具体的な内容を公開すべきである。	新市のホームページでは、NPO法人として登録している団体を掲載している。ご指摘のとおり充実しているとは言えないが、今後ホームページの内容を充実し、地域市民活動団体の活動促進に努めてまいりたい。
城北コミュニティ	分からないところを聴くため市を訪れたが、市の管轄ではないと言われ、県の担当課に聞くと市の該当課を紹介いただき解決できた。典型的な縦割り行政であり、市内部でもお互いに情報交換することが大切である。	市全体の業務について、職員一人ひとりが把握し、関係部署とも常に連絡をとりながら、来庁者にご迷惑をかかえることのないよう努めていく。
城北コミュニティ	市のホームページは、市民の間ではあまり知られていない。広報誌に電話番号と並べてアドレスを記載してはどうか。	市のホームページアドレスは、裏表紙の「編集と発行」欄に電話番号と並べて平成10年5月号から掲載している。
城北コミュニティ	市として、ごみの有料化を決定するまでにどのようなごみ減量対策をとられてきたのか？	合併前の丸亀市では、平成7年からごみ減量化推進員制度をスタートし、ごみ減量化やりサイクルの実践に取り組んできた。また、生ごみを処理するコンポストの購入費用を一部補助するとともに、減量化・リサイクルに向けての啓発活動も行ってきている。なお、これらの取組みは合併後の新市に引き継がれている。